

平成20年度 調査研究活動成果報告書

オープンソース CMS による
地域ナレッジマネジメントの可能性の研究

特定非営利活動法人 Hug-Communications

目 次

はじめに	1
I. 調査研究活動の概要	
1. 目的	2
2. 提案者	2
3. 調査研究代表者	2
4. 調査研究期間	2
II. 実施計画	
1. 調査項目	3
2. 環境提供	3
3. 実施体制	3
III. 調査研究活動実施結果	
1. 基本コンセプトの決定	4
2. CMSの選定	5
3. 必要な機能の選定	7
4. ユーザ環境での利用	10
5. 参画意欲生きがいの創出	11
IV. オープンソースCMS導入の問題点	11
V. まとめ	13
VI. 反省と今後の課題	13
(資料)	
別紙 「あしたのまち」協議会構成メンバー	14
資料1 目指すべき地域の姿	15
資料2 ネットコミュニティのイメージ	16
資料3 ネットワーク環境イメージ	17
資料4 NPO型ネットワーク形成	18
資料5 Net Commonsで構築した コミュニティサイト「Can's」	19
資料6 調査研究での参考サイト	20

はじめに

私たちはこれまで、生活に関わる多くの分野で「公共」の名を借り、地域社会を構成する一員としての義務と責任を行政に押し付けて来たのではないのでしょうか。

その結果、行政の肥大化と財政の圧迫、地域コミュニティの崩壊などを招き、多くの矛盾と歪を生み出してきたのが、今日の姿だと言えます。

今、多くのコミュニティ活動は、行政に対して要求要望を行なうことが主目的になってしまっているような気がしてなりません。

今こそ、コミュニティのあり方を見直し、地域社会を構成する一員として「できること」を見つけ、実践していくための活動をしていかなければならないと考えます。

然るに、これからのまち作りは、多種多様なコミュニティが公共の担い手として、行政と対等の立場で、何時でも何処でも誰でも参画し協働できる「仕組・機会・場」を創出し、競争と奪い合いの社会構造から、循環とシェアへとシフトしていかなければなりません。

時代はユビキタスネットワーク社会。時間・距離、そして立場や境遇を超えて、参画と協働を促すための、手段・手法としてICTを上手く活用することが効果的であることは言うまでもありません。

このようなことから、ICTを活用した参画と協働、循環とシェアの仕組みが必要と考え、本調査研究を実施いたしました。

特定非営利活動法人 Hug-Communications

I. 調査研究活動の概要

1. 目的

少子高齢化・地方財政の緊迫化・制度疲労などにより従来の行政依存型の地域振興策では限界がある。

これからの「まちづくり」は、行政を含め、地域住民、地域企業などが地域社会を構成する一員として対等の立場でパートナーシップを形成し、共生と創造の方策を見出していかなければならない。

社会の構成員が、それぞれの持つ知識・技能・経験や、物・労力など有形無形を問わず地域共通の資源として持ち寄り、共有し、相互に活用することで新たなコミュニティービジネスや、斬新な地域振興策の創出が期待できる。

これらの、地域資源をいつでも、何処でも、だれでも提供でき、また利用できる仕組みを実際にCMS（コンテンツマネジメントシステム）により構築し、その機能の活用可能範囲や有効性を研究する。

また、今後これらの企画、運営などは、地域のNPOやボランティア組織が担っていくと予想されることから、初期投資や運営コストを抑えることを前提に、オープンソースCMSを活用し、機能実装を研究する。

なお、高齢者等の持つ経験や知識は、地域資源として、また文化として共有し、伝承すべきコンテンツであり、それらを提供することが、社会に役立っているという意識付けを行なうことで、生き甲斐や、自発的活動へとつながることを期待しつつ研究を実施する。

2. 提案者

特定非営利活動法人 Hug-Communications
理事長 前川 綾子

3. 調査研究代表者

特定非営利活動法人 Hug-Communications
事務局長 齊藤 愛一郎

4. 調査研究期間

平成20年7月1日 ~ 平成21年3月31日

Ⅱ. 実施計画

1. 調査項目

(1) CMSの選定

多数のオープンソースCMSの中で、基本機能や日本語対応、付加機能、メンテナンスの容易さ等を調査し、最適なCMSを選定する。

(2) 必要な機能の選定

SNSやデータベース連携、携帯端末対応、ショップサイトなど、人物金情報の共有循環再利用に必要なベースの機能を絞り込む。

(3) ユーザ環境での利用

既に運用中のFWAインターネット接続環境で運用テストを行い、実際のユーザ環境での問題を検証し解決策を見出す。

2. 環境提供

(1) 参画意欲生きがい創出

高齢者等要援護者は、自身が社会に貢献する場と機会を得ることで、生き斐や自己実現につながる。例えば、竹細工や注連縄、民話の伝承など、いわゆる「年の功」を生かせる、実社会の活動の場を提供し、コンテンツとしてネットワーク上で共有するなど、リアルとバーチャルの両面からアクションを企画し、住民ディレクターによる活動へも展開できるような仕掛けを検討する。

(2) 自発的なICTの利用促進

特に高齢者は、情報通信機器の利用に消極的であり、ありきたりの操作研修ではスキルアップは望めない。単純に、孫とメールしたい。自身の知識が役立った。など、楽しみや実益、認められることなどを通じて、自発的に利用し、それがナレッジの蓄積になるような環境を提供する。

3. 実施体制

(1) センター施設

NPO法人瀬戸内国際交流協会が、NPO共同ネットワークセンターに整備しているFWAインターネット接続サービスの機器一式

(2) ユーザ環境

上記サービスのユーザ150名（平成21年3月末現在240ユーザ）

(3) 支援・助言等

株式会社四電工

富士通四国インフォテック

あしたのまち協議会（別紙名簿）

Ⅲ. 調査研究活動実施結果

1. 基本コンセプトの決定

(1) 目指すべき地域の姿

今回の「オープンソースCMSによる地域ナレッジメントの可能性」の研究を進める上で、まず目指すべき地域再生、あるいは地域活性化の方向性を明らかにしておく必要がある。地域特性などの様々な条件や事情等により多種多様な方法があつて然るべきであるが、社会的背景と課題、解決すべき命題は概ね共通であると認識し、三豊観音寺広域圏をモデルに、10年後の地域社会のあるべき姿を想定、そこに向うために有効と思われるCMS機能を検討した。

(資料1)

(2) 地域ナレッジマネジメントとコミュニティのあり方

自主的な参画と自己増殖が、継続するコミュニティを形成し、地域のナレッジが循環再利用される。持続可能な自律したコミュニティ(サステナブル・コミュニティ)の形成には、地域の現実社会とネットワーク上の仮想社会が相互に連動し関係性を保つ、いわばリアルとバーチャルの両面での交流が「知る・経験する・経験を生かす・ナレッジを蓄積する」のサイクルを形成すると考え、そのイメージを描いた。(資料2)

(3) 想定するネットワーク環境

ユビキタスネットワーク社会では、固定回線、移動通信体ともに全ての端末がインターネット網に接続され、回線種やキャリアに依存されない相互接続により、「何時でも・何処でも・だれでも・何でも」つながることが必須である。したがって、当然の事ながら使用するCMSの動作環境は、特有の技術やシステムの制限が極力少なく誰もが既存の環境で利用できるものでなければならないことから、Webベースで機能し、メンテナンスの簡易性やシステム変更等の柔軟性にとみ、しかもある程度の知識と経験で、通常のメンテナンスが可能なシステム環境を検討した。(資料3)

(4) 想定する管理運営形態

これからの地域社会は行政依存ではなく、社会の構成員各々がパートナーシップを形成し、公共を支えることが必要となる。地域のコミュニティシステムは、行政や大企業が提供する既製のものではなく、地域の特色を生かした地域密着型になり、TMO(まちづくり会社)や、NPOなどが管理運営することが見込まれる。これらの組織ではシステムエンジニアの常駐は難しく資金的な面からも専門職の確保は困難である。その反面、組織そのものが柔軟で、多方面への展開が可能であり、地域の支援も得やすいことから、むしろ地域コミュニティの運営には適している。(資料4)

2. CMSの選定

(1) 選定の方法

今回の研究の種子から、使用するCMSは、動作環境が無料で構築できることが望ましい。いわゆるLAMP(Linux・Apache・MySQL・Php)環境で安定動作することを必須条件として3候補選定、更に以下の条件を満たすCMSを選定した。

- ・ 完全日本語対応であること。
- ・ FAQ等のフォーラムが充実していること。
- ・ 汎用性と柔軟性に富んでいること。
- ・ メンテナンスが容易であること。
- ・ 情報の蓄積等データベース機能が強力であること。
- ・ 導入事例など参考資料が豊富であること。
- ・ セキュリティー対策が迅速であること。
- ・ 開発の持続性があること。

など

(2) 選定の結果

選定の結果、国立情報学研究所がFreeBSDライセンスでオープンソースソフトウェアとして公開している、「NetCommons」に決定し、サイト構築を進めることとした。

(3) 選定の理由

比較表で高評価であったことはもちろんであるが、選定の最も大きな理由は、他のCMSは機能単位でパッケージ化され、必要に応じてチョイスするプラグインを基本としているのに対し、NetCommonsは、基本機能をモジュールで提供し、モジュールごとに権限や機能を選択することで、用途を限定していない点である。

これによって、同じモジュールでも工夫次第で多様な用途に転用できる。例えば、掲示板モジュールの投稿権限を管理者のみに設定し、子記事や投票を拒否し、メール配信設定を行えば、メールマガジンとして機能する。

他のCMSが形の決まったパーツを組み立てるプラモデル的構成であるのに対し、NetCommonsは、基本パーツの組み合わせによって様々な用途を生む、いわばブロックのような発想である。

さらに、開発提供元の信頼度は群を抜いており、教育機関での導入事例が約2,000例あることも、選定の大きな理由の一つである。

なお、次の「CMS候補比較表」に掲載した評価は、あくまでも当研究目的に照らして、独自に評価したものであって、各CMSの機能そのものを評価したものではない。また導入目的や運用管理体制、評価者の技術的知識や経験により大きく変わるものである。

CMS候補比較表

基本的項目

項目	Joomla! (1.5.x)	Xoops (2.0.x)	NetCommons (2.x)
完全日本語対応	○	○	◎
FAQ等の公式フォーラム	○	◎	◎
汎用性と柔軟性	○	○	◎
メンテナンスの簡易性	○	○	◎
データベース連携	○	○	◎
導入事例など先進資料	○	◎	◎
セキュリティー対策	○	○	○
開発の持続性	○	○	◎

機能的項目

項目	Joomla! (1.5.x)	Xoops (2.0.x)	NetCommons (2.x)
コミュニティー	◎	○	◎
カレンダー	◎	◎	◎
グループウェア	○	×	◎
e-ラーニング	○	○	◎
検索	◎	◎	◎
ユーザプロフィールの拡張	◎	×	◎
アクセス権限の詳細制御	×	◎	◎
ログイン記録の確認	◎	○	◎
SSL 対応	◎	◎	◎
RSS 配信	◎	◎	◎
ドラッグアンドドロップ編集	×	○	◎
複数ファイルのアップロード	×	○	◎
新着記事のお知らせ	×	◎	◎
メール配信	○	○	○
SEO	◎	○	○

3. 必要な機能の選定

(1) 機能選定の方法

Net Commonsでは、機能単位を「モジュール」と表現する。このモジュールをページ上に配置することで、簡単に運用が可能となり、モジュールの追加や変更、ページ間移動などすべての編集操作は、Web上から可能である。

既に運用中であっても、レイアウトや、各モジュールのデザイン、背景色やフォント色に至るまで、大抵の変更が簡単に行なえる。

また、各モジュールは実際に使用しないと、その機能が理解できないことなどから、最初に使用するモジュールを確定してしまうのではなく、以下のモジュールを配置しWeb上で確認しながら有効と思われるモジュールを取捨選択する方法を採った。

Net Commons 2.xが標準で提供している主なモジュール

分類	モジュール名	機能概要
サイト構築の基本	お知らせ	HTMLエディター
情報を集約する	検索	モジュール単位や全文検索
	新着情報	サイト内最新情報をまとめて表示
	オンライン状況	サイトの現在のアクセス状況
外部サイトとの連携	RSS配信	Web上の購読者にヘッドラインを配信
	Iframe	外部サイトを自サイトの一部として表示
時間軸での情報管理	カレンダー	カレンダー上に多様な情報を表示 メール配信可能
	施設予約	施設や講座などの情報管理 カレンダーと連動可能
情報共有	日誌	いわゆるブログ、トラックバック利用可能
	掲示板	コミュニティの基本機能 メール配信可能
	キャビネット	ダウンロード提供ファイルの整理保管
	フォトアルバム	電子アルバム スライドショーとして閲覧可能
	汎用データベース	任意にデータベースを作成 複数のカテゴリ設定可能
	アンケート	任意の項目でアンケートを作成 集計可能
e-ラーニング	小テスト	任意の出題を設定しテストを作成 集計可能
携帯端末対応	携帯電話対応	国内の大手3キャリアに自動で対応 一部モジュールは未対応

なお、システム管理のモジュールについては、会員管理やモジュール自体の管理、またシステムやセキュリティ管理、バックアップなど、サイト管理に必要なすべての機能がWeb上から行なえる仕様となっているが、詳細については省略する。

(2) 選択した機能

前記のように、多様な機能を標準で備え、コメント受付や投票機能、任意の項目設定を可能とするなどの柔軟性から、多様な用途が見込まれるが、試行錯誤を重ねるうちに、概ね次のようなモジュール用途に集約できた。

この柔軟性ゆえに多種多様な情報受発信を可能とし、あらゆるサイト構築に対応できるものであるが、だからこそサイトの目的や方針を明確にしておかなければならないと実感した。

選択したモジュール（機能）

分類	モジュール
SNSなどのコミュニティー	掲示板 日誌
多様な情報を蓄積するデータベース	汎用データベース
時間と情報をリンクするカレンダー	カレンダー 施設管理
情報の循環を促進する付帯機能	新着・RSS配信 メール配信 コメント・投票 カテゴリー検索

(3) サイトのメニュー構成

いかに優れた機能を持つCMSで構築したWebサイトであっても、多くのユーザが参加し活発な交流が行なわなければ、意味がない。

サイトのデザインはもちろん、メニューをいかに構成し、いかにして興味深い情報を扱うかが鍵である。むしろ、CMSの機能そのものよりもはるかに重要な要素であろう。

ナレッジとは、社会活動や日々の生活の中に散りばめられたものであって、情報の交流の中から必然的に集まり、ピックアップされていくものであると考える。それをマネジメントする仕組みとは、情報の提供をしやすくし、より多くの情報を収集蓄積しつつ分類整理し、再利用へと繋げる仕組みだと考える。

そのための参考例は、既に身近に数多く存在する。

例えば、「教えてgoo」や「Wikipedia」は、その際たる事例であるし、料理レシピや観光ガイドのサイト。さらには、地域情報誌や広報誌、神社仏閣の由来を記した看板、方言やしきたりなども、地域のナレッジと言える。

大切なのは、いかにして興味をひき、利用しやすいメニューを構成し、「人・物・金」の情報を循環させ、実社会での循環を促すことへ繋げていくかである。

以下に、当研究での最終的なメニュー構成を示す。

最終メニュー構成

メニュー	サブメニュー	趣旨説明
このサイトについて	省略	サイトの基本的情報を提供。 運営方針や規約、プライバシーポリシー、会員登録の方法、FAQなど基本的情報を掲載。
こてこてさぬき弁談話室	・ 皆の掲示板 ・ 皆の日記	情報の交流と循環によるコミュニティ形成の基盤。
みんなで解決人力広辞苑	・ 皆にたずねる ・ 登録済みから探す	掲示板を転用した相談コーナー。 普遍的な情報などは、汎用データベースに登録。
WebでCM		店舗企業などの情報掲載。クーポン情報などを提供し集客。
特得Now		特売等の単発企画情報を掲載。 メール配信機能による消費促進。
イベント・セールカレンダー		イベントや感謝デーなどの情報掲載。 メール配信機能による集客増。
映像ギャラリー	・ ムービー ・ フォト ・ アルバム	映像、画像の蓄積。記録映像や貴重な写真、地域の風景などの保存と再利用。 住民ディレクターへの展開を目指す。
ワンニャン広場	・ ワンニャン情報室	ペット情報のデータベース。里親の募集や、飼い主の交流により動物愛護を促進。
「美味しい」をみんなに	・ 投稿「美味しい発見」 ・ 投稿「献立お助けレシピ」	美味しい料理や食べ方、料理レシピのデータベース。 郷土料理の伝承などを想定。
超ローカルニュース		地域の埋もれた情報や新たな発見をニュース形式で蓄積。 地域の再発見や御当地記者の育成を目指す。
書庫ダウンロード		資料などのファイルを格納。 現在は管理者のみに登録権限付与。
リンクのページ		行政関係などのリンク集。 生活情報の窓口機能を想定。

本研究でのメニュー構成は固定ではない。情報の内容やアクセス状況、またユーザの要望などにより、柔軟に対応していく。

2. (3) 選定理由及び3. (1) 機能選定の方法で記したように、メニューの追加変更やページの追加削除、モジュールの移動が極めて簡単に行なえるため、状況に応じてより適した構成へと改善が可能である。

4. ユーザ環境での利用

今回構築したサイトを「Can 's」と命名し、FWAインターネット接続サービスの基本サービスに組み込んで、そのアクセス状況を検証。

3月末現在、「Can 's」の登録ユーザ数	242名
投稿ユーザ	31名
内高齢者	1名

(ユーザ管理のログイン履歴より)

サイト訪問者数(ユニークユーザ) 61名/日

平均ページビュー数 4.14ページ/セッション

平均サイト滞在時間 5分33秒

検索サイトからのセッション率 34.83%

検索キーワード上位 「投稿 献立」 50.29%

「さぬき 掲示板」 21.05%

FWAユーザのセッション率 60.9%

(Google Analytics より)

となっている。

この結果から、サイト登録ユーザ数の約61%は閲覧しているものの、投稿者は約13%に留まっており、情報の受信のみの受身ユーザが多い。

しかしながら、平均サイト滞在時間は、5分30秒を超え1回のアクセスで4ページ以上を閲覧していることから、サイトの構成やコンテンツ自体は大きな問題はないと思われる。

また、検索サイトからの訪問者が3分の1以上存在することは、予想外であった。これは、NetCommonsのSEOが効果を発揮していると思われる。

なお、「Can 's」サイトを正式に公開したのは予定より大幅に遅れた2月16日、登録ユーザ15名からのスタートであった。FWAユーザの基本サービスとしてアナウンスし、ユーザ登録を行なったのが、3月24日であったことを考えると、物珍しさによるアクセスなのか、若しくは今後の展開に期待できるのかは、判断に苦しむところであり、引き続き検証を重ね、検討と改善を継続していかなければならない。

5. 参画意欲生きがいの創出

知識や知恵、経験、習慣、風習、言い伝え、方言など、それぞれの地域によってバラエティーに富んだ情報が埋もれている。その多くは高齢者が先人から伝えられ引き継がれて来たものであり生活の中から得た知恵「年の功」である。これらの貴重な情報を地域共有の知的資源として活用することが望ましい。

しかし、多くの高齢者はICTの利用には消極的である。そこで、無理にICTを利用させるのではなく、知識や経験を生かす場と機会を実社会で提供し、その様子や記録をデジタル化し、共有する企画が必要である。また、自身が進んでICTを活用する方向へと導く工夫も同時に行なっていかなければならない。

知識や経験などが社会に役立つことを認識できれば、自発的な社会参画と生きがい創出につながって行くと考え、CMSの活用を検討した。

- (1) 高齢者等の活躍の場を提供し、社会参画を促す仕組みとして、経験や知識技能などいわゆる「年の功」をデータベース化し、実社会の活動をネット上に配信し共有蓄積できるシステム的な環境は整った。
- (2) 自発的なICTの利用を促すために、楽しみながら若しくは、趣味と実益を兼ねた情報を発信する環境の提供を目指し、簡単に投稿できる仕組みや、メニュー構成、カテゴリーなどを工夫した結果、誰もが簡単に情報を提供でき、共有蓄積できるシステム的な環境は整った。

IV. オープンソースCMS導入の問題点

オープンソースは、基本的に無料である。CMS本体から動作に必要な「LAMP環境」にいたるまで、簡単に入手し利用できる。このことは、誰もが等しく小さな投資で高度なシステムを構築できる可能性を持っていることになる。

NPOやボランティア組織などにとっては、その利用価値は計り知れない。また、公共ビジネスやコミュニティービジネスの創出にもつながることは誰もが認識している。

しかし、導入する際にはオープンソースならではの課題や問題点もある。そのことを事前に承知し認識した上で、活用することが望ましい。

今回の調査研究を通じて、発生した主要な問題点を以下に整理する。ただし、技術的検証が研究目的ではなく、CMS活用の可能性の研究であるため、技術的な詳細や専門的な部分については省略する。

(1) 一般的な問題

知識と技術があれば、自身で行なえるので、問題はない。しかし、大抵の場合、IT関連企業に委託することになるのだが、受託者を見つけることは困難である。ベンダー系については特に難しいといえる。

なぜなら、オープンソースであることから、不具合に対する責任の所在が明確でなく、受託者側が責任を負えないからである。

したがって、自身で行なうか、技術を持った個人や、オープンソースを扱うベンチャーなどを探す必要がある。

さらに、ネットワーク環境によっては、ファイアーウォールの設定変更や、DNSへの登録、ドメイン名の取得など、付帯する作業が発生する場合があることも考慮しておかなければならない。

導入後も各ソフトのバージョンアップなど、メンテナンスに関する多くの作業が必要となる。これらの対応を十分に検討しておく必要がある。

(2) Net Commonsに関する問題

インストールマニュアルは、提供されているが完全ではなかった。今回の場合、マニュアルで推奨されている環境を整えても、正常動作せず苦難を極めた。

原因は、Net Commons 2.0以降において、AJAXを使用した点にあった。

このAJAXを動作させるためには、一部PHPコードの修正が必要であった。

最も苦慮した問題は、Linux特有のパーミッション（権限）によるものである。

つまり、ファイルにはすべて所有者と所有者の属するグループが設定され、各々にリード・ライトの可否が設定される。同じファイルでも、誰がアクセスしているのかで、読み書きが制限されるため、インストール時にコピーされなかったファイルが多くあり、それを捜し当ててコピーすることで、概ね運用できる常態へとこぎつけた。

マニュアルには、必要なディレクトリとファイル全てをパーミッション 777 に変更すると記されているが、これだけでは不十分である。

なお、現在のマニュアルは改善され、詳しく記されている。

我々は、今後の運用を可能な限り自身で行なうこととしている。そのためには、バージョンアップ程度の作業が可能な知識を得る必要があった。

今回、Net Commonsは、研究期間中に2回のバージョンアップがあったが、それをあえて委託せず、自身で行なってきた。結果、システムの構築までに長期の期間を費やしたが、多くのノウハウを得ることができた。

V. まとめ

「オープンソースCMSによる地域ナレッジマネジメントの可能性」については、大いに可能性はある。ただし、CMSの機能のみに頼ったシステムでは有効性が薄れる。

実社会の活動と連携して効果を発揮するものである。

今回の研究では、Net Commonsを選定したが、仮に他のCMSを用いたとしても、同様のシステムは構築可能であろう。

往々にして、システム構築時にはシステム自体の機能追及へと目的が変わってしまう場合がある。目的はあくまでも地域の活性化と、より良い社会を創造していくことである。

コミュニティーは、地域構成員の相互理解を深め、合意形成を行い、地域課題を解決していくために欠かせない。それは、人と人との対等な結びつきから生れてくるものである。

地域ナレッジマネジメントは、単に知識を収集しデジタル化して蓄積することではない。ナレッジを皆の共有資源として有効に活用できてこそマネジメントである。

ICTを活用したコミュニティーの仕組みは、あくまでも生身の人間同士の交流活動を補完するものであって、システムのみでは単なるデータ通信の手段にほかならない。

大切なのは、目指すべき地域社会のあり方を画き、現状を知り、そのギャップをどんな方法で埋めていくのかを探り、その中でICTを上手く活用していくことである。オープンソースCMSの利用はその一手段に過ぎないのである。

地域を思い相手を思いやる、豊かな情と心が通った情報が循環するコミュニティーシステム、「情豊通心システム」こそが、ナレッジマネジメントにつながる。

オープンソースCMSの機能は日々進化し、あらゆるコミュニティー機能の構築が可能になってきている。そこに、明確なビジョンと生身のネットワークが加わった時、計り知れない可能性が生れて来るのではないだろうか。

VI. 反省と今後の課題

CMSの稼動までに長期を要した結果、あしたのまち協議会の開催がほとんど出来なかった。折角のそうそうたるメンバーであるにも関わらず、各位の貴重な意見を集約することが出来なかった点が、悔やまれてならない。インストール作業を安易に考えていたことが、調査研究そのものに充てる期間を浪費することになってしまった。

とはいえ、要所要所では個別にメンバー各位の助言を得つつ、ほぼ自力でシステム稼動までこぎつけた事は、今後のメンテナンス作業に役立つノウハウを獲たことになる。

今後の課題は、公開したサイト上のコミュニティーを実社会の交流に連携させることである。また、サイトの管理運営費用を調達するための仕組みをビジネスベースで検討しなければならない。

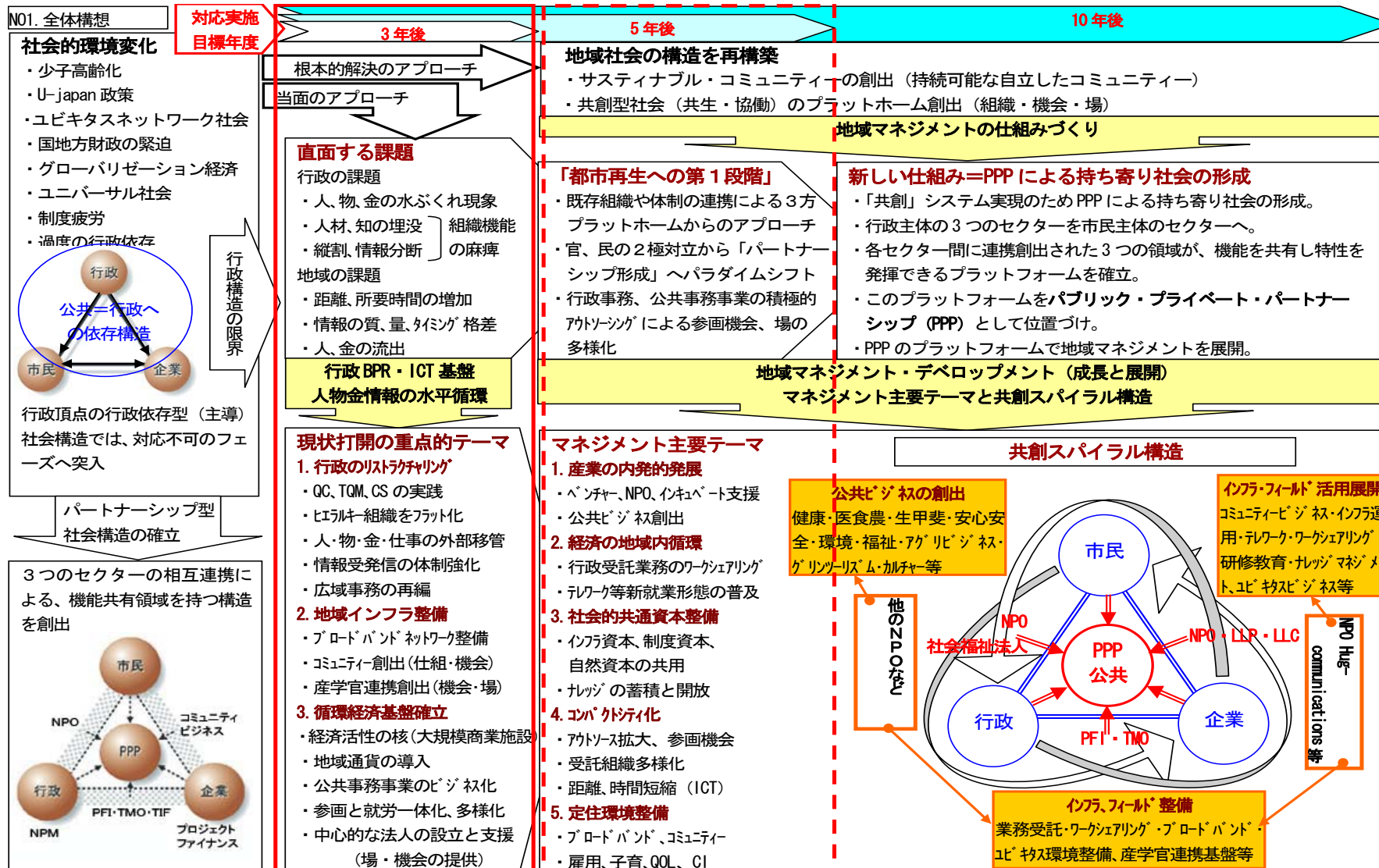
今後も、引き続き地域コミュニティーとナレッジマネジメントのあり方について、検討検証を重ね、地域活性化に繋げて行きたい。あしたのまち協議会メンバーの方々、本調査研究に興味を持たれた方々に対し、切にご協力を願うものである。

別紙名簿

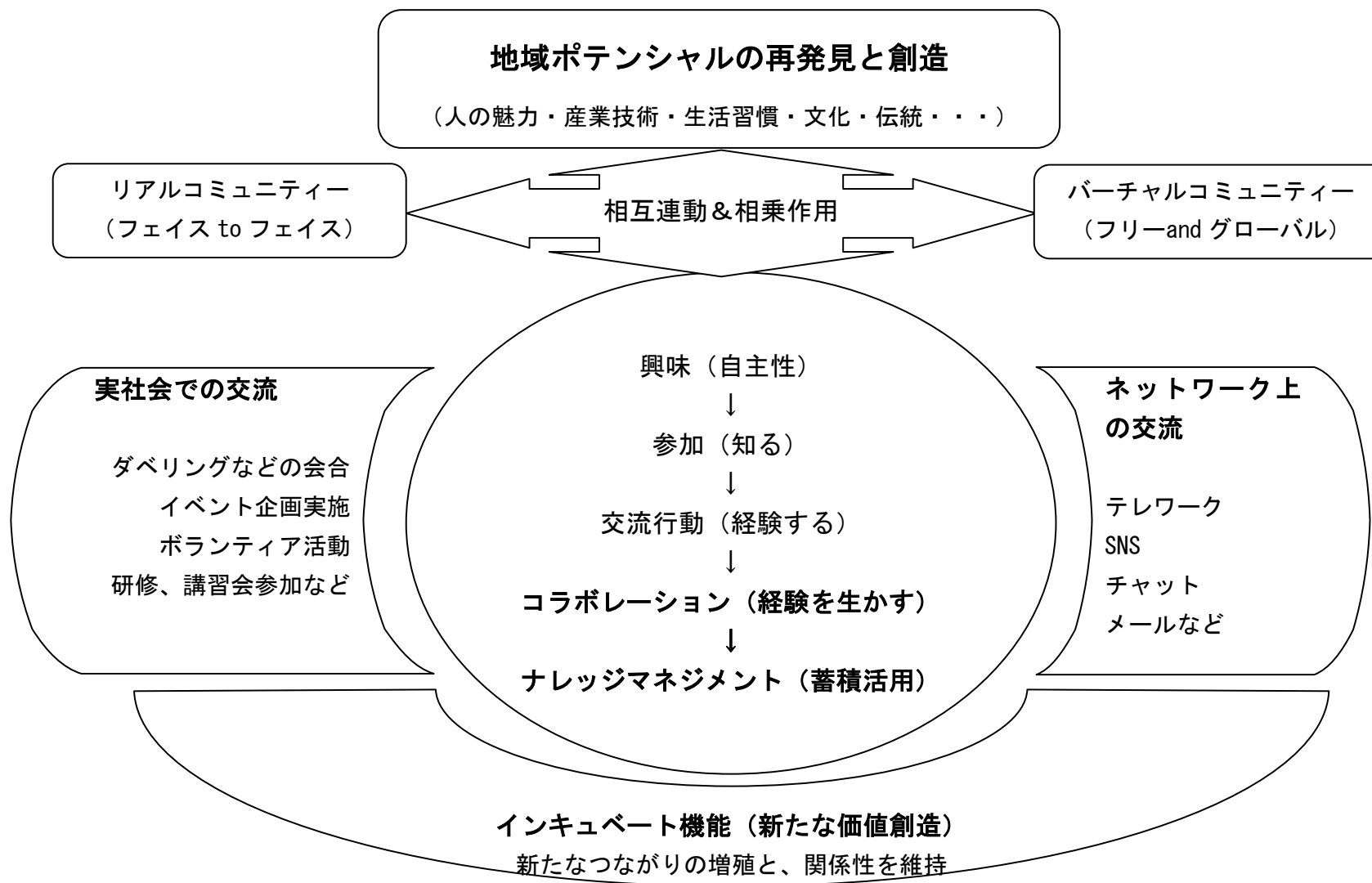
「あしたのまち」協議会構成メンバー

所属	氏名	備考
高知大学 国際・地域連携センター教授	坂本 世津夫	アドバイザー
(株)五星	織田 雅文	
(株)四電工	横井 朝晴	
NetOneSystems	高橋 聖	
(株)富士通四国インフォテック	井口 英知 西尾 秋生 堀 紘治	
(株)NTT ドコモ四国	武智 孝志	
農業生産法人オーガニックプレイスメントファーム	安藤 幹夫	
(株)名物かまど	佐長 哲夫	
地域情報誌 FUN 編集部	大川 温子	
NPO Hug-Communications	前川 綾子	
事務局	齊藤愛一郎 大西久美子 牧野 照美	

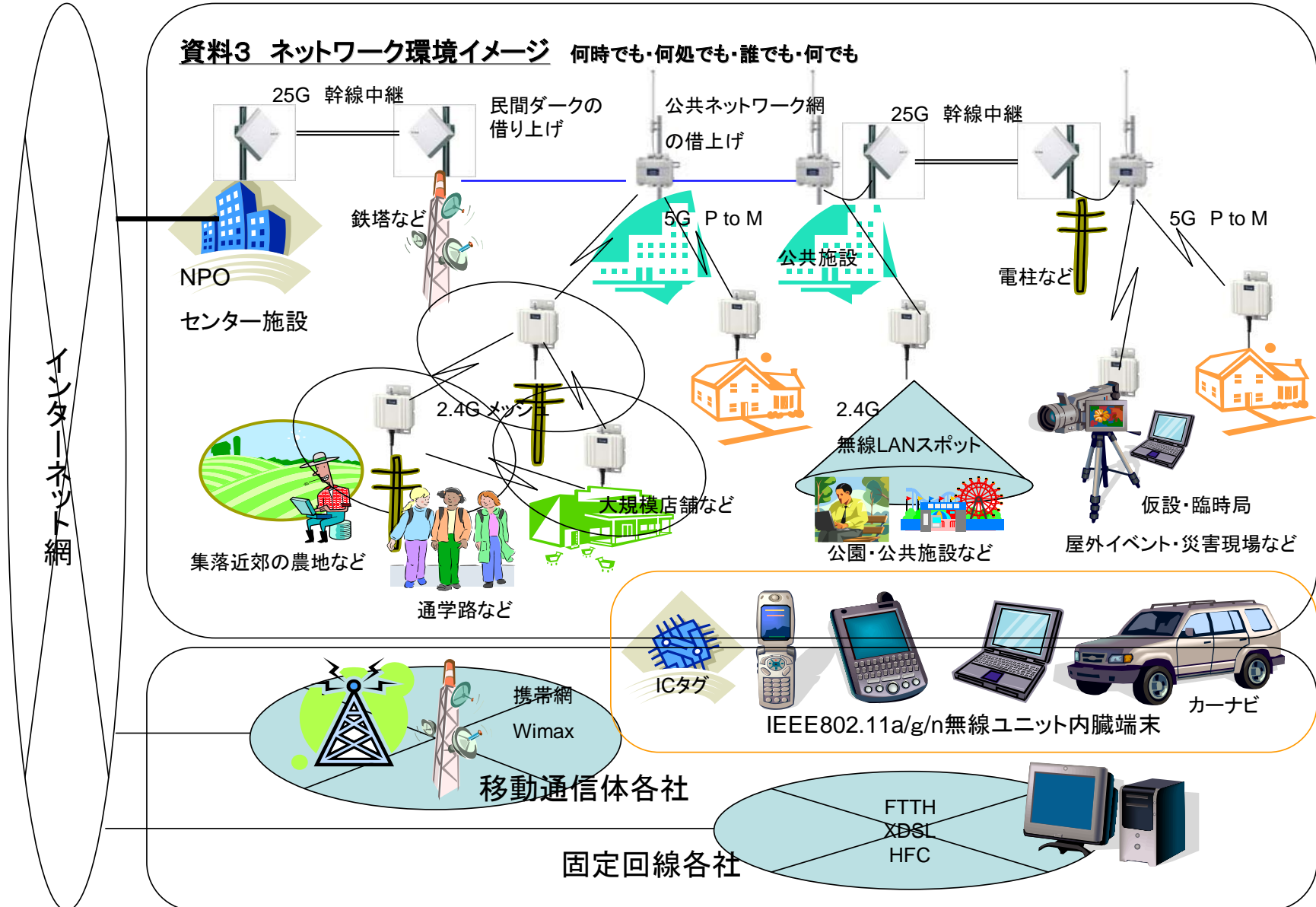
資料1 目指す地域姿



資料2 ネットコミュニティのイメージ



資料3 ネットワーク環境イメージ 何時でも・何処でも・誰でも・何でも



資料4 NPO型ネットワーク形成

•あるものは何でも使おう

- 回線種類やISPにこだわらない
- PCも携帯も情報家電も、ICタグも繋がるものは何でもこい
- 民有、公有関係なし。地域にある物(者)は皆資源

•し援、寄付は大歓迎

- 支援依頼や寄付金集めは、営業活動
- 救いの手はありがたく受け入れ。助成制度は何でも活用
- 協力者にもメリットをリターン。みんなが得する仕掛け

•たりない物は借りてこよう

- 知識、技術、ノウハウ、人脈。各分野のマンパワーを集結
- 事務所も設備も機器も、粘って格安交渉。自前の物は最低限

•のこりものに、福がある

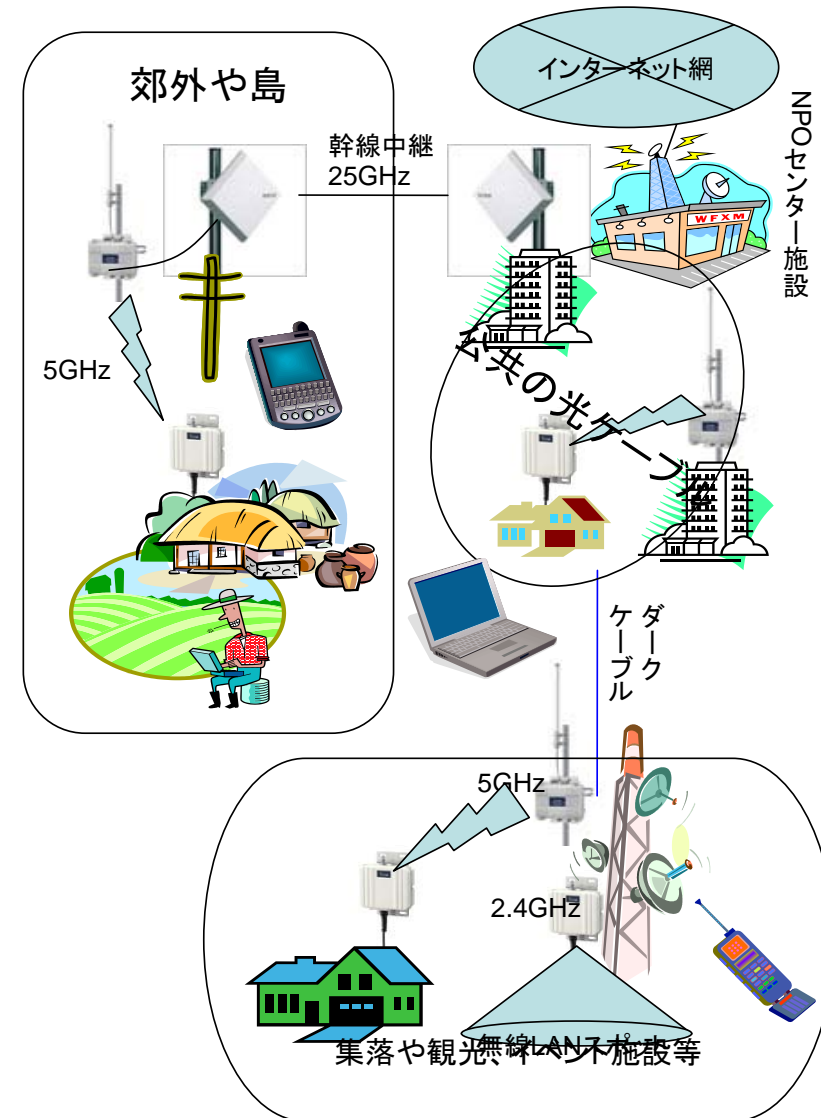
- 官も民も手を出さない。狭間にビジネスチャンスあり。

•まぜご飯も立派な料理

- ブレンドとマッチング。まさかの組み合わせが新しい
- ブランド品で統一よりも、寄せ集めのトータルコーディネートで勝負

•ちいさなスタート大きく拡大

- 的を絞ってスタート。アメンバーのように増殖
- 点から線へ、線から面へ
- 隣の隣も皆隣、そのまた隣も皆隣。ロコミは強力なコマース



資料5 Net Commonsで構築した、コミュニティサイト「Can's」

<http://cms.sun-age.or.jp/cms20/htdocs/>

投稿画面（すべての投稿編集に共通して用いられる）

汎用データベースの投稿画面（項目やコンテンツタイプを自由に設定）

The screenshot shows the main posting interface of the Can's website. At the top, there is a navigation bar with the site logo and various menu items like 'Can'sトップ', '掲示板', and '皆にたずねる'. Below this is a sidebar with a 'Can's トップページ' section containing links to site information, forums, and other community features. The main content area is titled '皆の掲示板[根記事一覧]' and includes a search bar, a list of posts, and a rich text editor with various formatting options (font, size, style, bold, italic, underline, link, image, etc.). At the bottom, there are buttons for '一時保存', '投稿する', and 'キャンセル', along with a status bar showing the current user 'inoshishi' and the date '2009/04/12 (0票)'.

The screenshot displays a detailed posting form for a database-driven site. It features several input fields and dropdown menus for metadata: 'タイトル' (Title), 'カテゴリ' (Category) set to '里親を募集', '分類' (Classification) set to '犬', '写真' (Photo) with a '参照...' button, '種類' (Type), '性別' (Gender) set to 'オス', '種差' (Breed), '年齢' (Age), and '連絡先' (Contact Information). Below these fields is a '詳しい情報' (Detailed Information) section with a rich text editor. At the bottom, there are buttons for '一時保存', '決定', and 'キャンセル'.

資料6 調査研究での参考サイト

Net Commons公式サイト	http://www.netcommons.org/
国立情報学研究所	http://www.nii.ac.jp/
NPO 法人Commons net	http://www.commonsnets.org/
Fedora Core	http://fedora.jp/
Apache	http://www.apache.jp/
MySQL	http://www.mysql.gr.jp/
PHP	http://www.php.gr.jp/